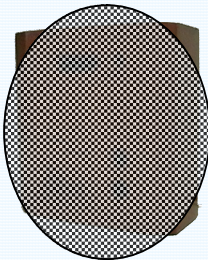
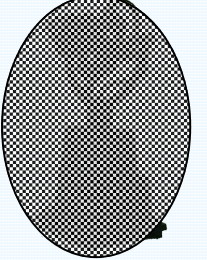


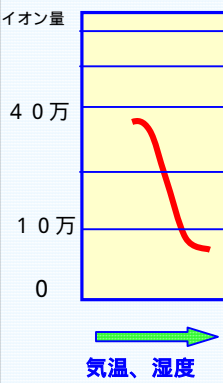
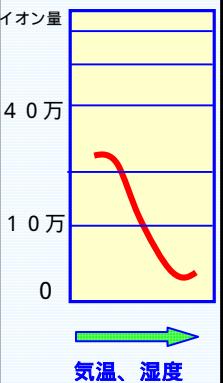
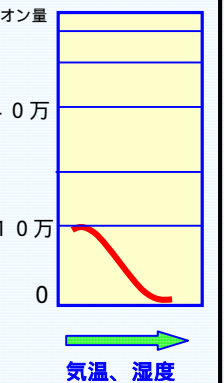
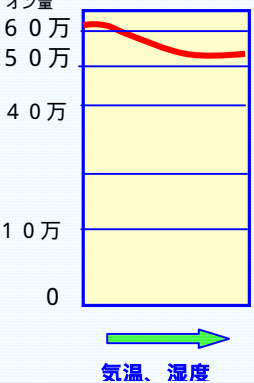


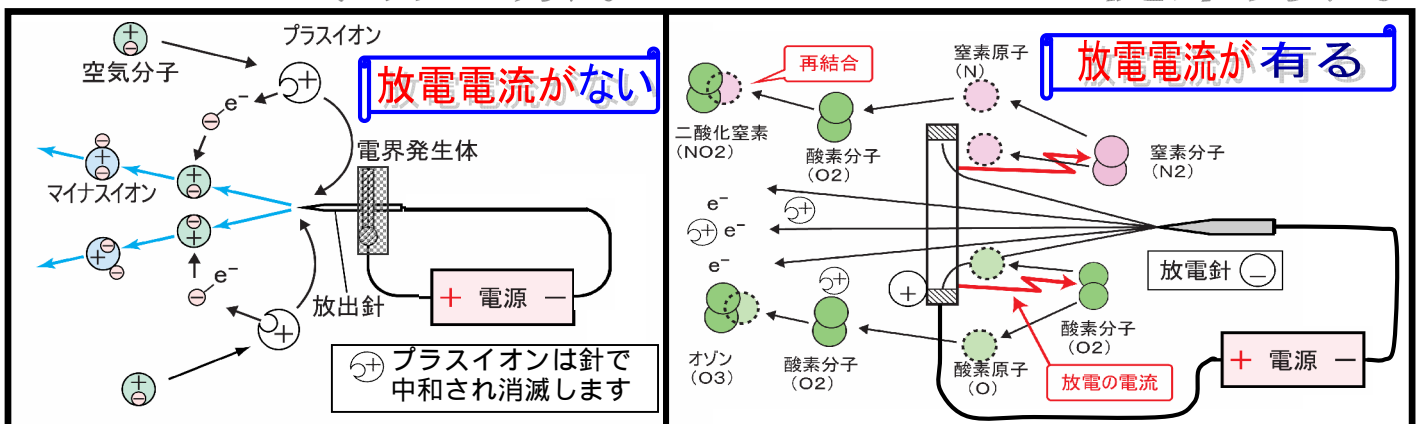
# マイナスイオン発生器の方式別の特長

方式名				
比較項目	空中放電式	電子放射式	コロナ放電式	イオナー方式
<b>マイナスイオンの発生量</b> 1 mで測定 単位 CC/個 20度C 50%RH	28万	16万	千個	60万
<b>有害なオゾンの生成量(吹出口)</b> 単位 P P m <b>基準となる参考値</b> <b>0.05 P P m以下</b>	0.7	0.2	1.0	0.00
<b>気温、湿度の変化によるマイナスイオン放出量の変化</b> 1 mの距離 単位 万个/CC				
<b>マイナスイオン検知器の付属</b>	なし	なし	なし	有り

## 構造の違い

### イオナー方式

### 従来方式



イオナー方式は、放電電流に依存していないので、オゾン等の心配がなく、季節を通して大量のマイナスイオンを生成します。マイナスイオンは空気分子から取りだしていますので滝と同じく天然です。オゾンが出ていればNO、NO<sub>2</sub>(NO<sub>x</sub>)が出ている。\* 電気学会大学講座 電気気体論 (社)電気学会より

NO、NO<sub>2</sub>(NO<sub>x</sub>)は自動車の排気ガスから排出されて公害の原因となっています。

#### 選択の基準

- 有害なオゾンは基準値以下かどうか？
- マイナスイオンは1mの距離でいくら出ているか。
- 気温、湿度が変化しても安定してマイナスイオンを放出するか。